

学会等受賞論文の概要

受賞者	西村 亮彦（防災・メンテナンス基盤研究センター 緑化生態研究室）
論文題目	伝統工法の保全・活用を通じた地域づくりの進め方
授与機関	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
受賞時期	平成29年12月
受賞内容	第9回文化的景観集会 ベストポスター賞
論文概要	<p>近年、地域の歴史的風致を構成する建造物について、まちづくりへの活用を視野に入れた多面的な評価が高まる中、修復・保存の現場において地域固有の伝統工法に係る人材、材料、資金等、各種資源の確保が課題とされている。そこで、全国における伝統工法の保全・活用を通じた地域づくりの取り組み事例を収集し、活動内容と取り組み体制に基づく活動スキームの類型化を試みるとともに、持続的な地域づくりを実践する上での留意事項を整理した。</p> <p>活動内容については、ヒト（人材育成・技術継承）、モノ（材料の生産・流通確保）、コト（規制誘導・ネットワーク構築）の3点に着目しながら、地域の課題に応じた活動の方向性を整理した。取り組み体制については、①学校・塾タイプ、②実践学習タイプ、③地域連携タイプ、④自助・共助タイプの4つに分類し、活動を担う組織の運営方法やステークホルダー間の役割分担、財源確保のあり方を整理した。</p> <p>伝統工法の保全・活用に取り組む上で、一番の課題となるのが活動資金の確保である。公的助成等の外部資金には一定のリスクが伴うため、自己資金の拡充を図ることが望ましい。費用負担の面だけでなく、活動場所の提供や各種事業の共催等、行政による多面的な理解・支援を得ることも、活動の継続と拡充を図る上で重要である。また、人材育成に係る活動では、資格認定等を通じた参加者に対するインセンティブの付与に加え、習得した技術を発揮できる市場の創出が、活動の効果を高める上で重要なポイントとなる。</p> <p>今後、伝統工法の保全・活用を通じた地域づくりの取り組みについて、基本的な考え方と具体的な活動の進め方を解説した技術資料を作成する予定である。</p>